

# 今月の逸品

NO.01 2015.04

京都市伏見区深草藤森町1

☎ : 075-644-8840/8175

✉ : manabi@kyokyo-u.ac.jp



## 都おどり (小町踊)

大正時代

110 mm × 80 mm × 235 mm / 170 mm × 170 mm × 215 mm  
明和年間から続く京都の老舗人形店の丸平大木人形店において、大正年間に製作された人形。丸平大木人形店の当主は、代々大木平蔵を名乗っているが、これは四世大木平蔵（1860-1939）の時代に製作されたものと考えられる（現当主は七世大木平蔵）。2体の人形を一組として作られたものであり、江戸時代の京都で流行した小町踊を表現している。小町踊は、手襷（たすき）に鉢巻姿という格好をした7、8歳の女子が、七夕の日に団扇太鼓（うちわだいこ）を手にして街を練り歩くというもの。腰を落とした左側の人形も本来は太鼓を持っていたはずだが、その太鼓は残念ながら失われてしまっている。京都教育大学教育資料館には、丸平大木人形店の製作にかかる人形が、ほかにもいくつか伝わっており、いずれも歴史・風俗を示す教材として購入されたのだろう。



<表>

<裏>

団扇太鼓